

江差町立南が丘小学校



かけはし

【本年度の重点教育目標】

『豊かな心の育成 礼儀正しさ・思いやり・粘り強さ』

TEL0139-52-0524 FAX0139-52-5489

通信簿 de コーチング

南が丘小学校長 佐藤 健



夏休みが終わり1カ月。校内に子どもたちの声が響き、日々、ほめられたり叱られたり、の素敵な成長のドラマが生まれています。

暦は9月末で学年の折り返し地点、上半期が終わり「通信簿」の季節です。「通信簿」と聞くと、どんな思い出があるでしょう？我々教員は、通信簿を作る時に大変頭を悩ませます。通信簿を子どもたちへの「応援歌」にするためです。

保護者の皆様には、この応援歌を使って、お子さんへの力強い励ましをお願いしたいのです。

『コーチング』という技術をご存じでしょうか？「答えを教え込むのではなく、問いかけによって（子ども）自身の中の『答え』を引き出すコミュニケーション」です。昔のスポーツコーチは指示が中心でしたが、最近の優れたコーチは選手に質問し、選手自身の考えを引き出し、判断力を高めるそうです。

【オープンクエスチョン（開かれた質問）】

「はい/いいえ」だけの答えではなく、聞かれた側が自由に考えを広げられる質問。

「今回の通信簿で、自分の中で『がんばった!』と思うところはどこ？」



【Whyではなく What/Howで】

「なぜ」は原因追及の後ろ向きになりがち。これから「どうする？」なら、解決方法に頭が切り替わります。「そのためにどんなことを工夫したの?」「どんなふうにがんばったの?」

【「未来」と「目的」に視点を向ける】

「できない理由（過去・問題）」より、「どうしたいか（未来・目的）」に意識を向けさせます。

「次に伸ばしたいことは何かな?」与えられた指示より、主体的な考えこそ行動変容につながります。

…とは言っても、「聞いても、黙って返事しないじゃ…」という疑問には…

【沈黙を待ち、内省を促す】

人は問われて即答するときよりも、沈黙して深く考える時に新しい気づきが生まれます。

さて、いかがでしょう？コーチングは、主体となる相手を信じ、内面の宝を自ら見つけさせる声掛けです。「通信簿」も、過去の判定結果ではなく、『お子さんの成長をサポートする道しるべ』でありたいと願っています。ご家庭での温かな対話によって、お子さんの「やる気」を引き出すきっかけにしてみてください。

宿泊研修～経験を自信につなげて～

5名の5年生にとって、初めての宿泊を伴う集団での研修旅行。9月3日、子どもたちは不安と期待を感じながら出発しました。函館の歴史や大沼の自然に触れ、集団行動を通して自主性と協調性を育むことをねらいとしています。函館NCVの見学、自主研修、大沼での温泉、宿泊、カヌーなどを体験してきました。教科書やネットでは得ることができない、実感を通した経験、知識はかけがえのないものです。1泊2日の宿泊研修を通して、子どもたちは自信をつけて、これからの困難に挑む力や、互いを思いやる心の成長へとつながってほしいと願っています。



大沼でカヌー体験。背景に見えるのは駒ヶ岳。

1日防災学校～いざというときの備えを～



災害用トイレの実演。災害時を想像しながら話を聞きました。

9月15日、地震を想定した避難訓練と「1日防災学校」を行いました。役場の防災担当者の方をお招きし、災害時に命をまもるための工夫について、体験を通して学びました。役場の蛸名さんの話では、地震の被害で直接亡くなる人の数より、その後の避難生活の負担による「災害関連死」の方が多い、とのことでした。その対策として、役場では段ボールベッド、非常食、災害用トイレ、テントなどを備蓄しています。子どもたちは段ボールベッドをつくり、寝てみたり、非常食を温めて食べたりするなどの体験をしました。子どもたちは蛸名さんの話を真剣に聞いていました。災害時に自分の命や家族の命を守るには、日頃からの備えが重要であると改めて学びました。

江差追分の歌と歴史を学ぶ

3・4年生は、菊地塾師匠をお招きし、江差追分を学びました。江差に伝わる伝統文化を直接教わる貴重な機会です。子どもたちは、菊地師匠から、江差追分の歴史、歌詞の意味、歌い方などを教わりながら、歌う練習をしました。

江差追分学習の後は、菊地師匠に江差沖揚げ音頭を学びます。そして、10月17日の学習発表会で披露する予定です。



楽譜を見ながら、歌い方を習う子どもたち。



年長さんにたちに優しく教える1・2年生。

年長さんとの交流会

1・2年生は、江差幼稚園とかもめ保育所の年長さん合計27名を迎え、交流会を行い、「点つなぎ」、「バナナおに」、「宝探し」などを楽しみました。来年の春に入学する年長さんたちは、はじめ緊張していた様子でしたが、1・2年生が優しく接していると、次第に打ち解けていたようです。1・2年生は元気な声で司会進行役を務め、とても頼もしく感じました。